

1993 年京大文 [2]

(1)

$$\vec{PE} = \frac{\vec{PA} + \vec{PB}}{3}, \vec{PF} = \frac{\vec{PB} + \vec{PC}}{3}, \vec{PG} = \frac{\vec{PC} + \vec{PD}}{3}, \vec{PH} = \frac{\vec{PD} + \vec{PA}}{3} \text{ であるから}$$

$$\vec{EF} = \vec{PF} - \vec{PE} = \frac{\vec{PC} - \vec{PA}}{3} = \frac{\vec{AC}}{3}, \vec{HG} = \vec{PG} - \vec{PH} = \frac{\vec{PC} - \vec{PA}}{3} = \frac{\vec{AC}}{3} \quad \therefore \vec{EF} = \vec{HG} = \frac{\vec{AC}}{3}$$

$$\vec{FG} = \vec{PG} - \vec{PF} = \frac{\vec{PD} - \vec{PB}}{3} = \frac{\vec{BD}}{3}, \vec{EH} = \vec{PH} - \vec{PE} = \frac{\vec{PD} - \vec{PB}}{3} = \frac{\vec{BD}}{3} \quad \therefore \vec{FG} = \vec{EH} = \frac{\vec{BD}}{3}$$

したがって、四辺形 $EFGH$ は平行四辺形である。

$$\vec{PI} = \frac{\vec{PA} + \vec{PB}}{2}, \vec{PJ} = \frac{\vec{PB} + \vec{PC}}{2}, \vec{PK} = \frac{\vec{PC} + \vec{PD}}{2}, \vec{PL} = \frac{\vec{PD} + \vec{PA}}{2} \text{ であるから、同様に、}$$

$$\vec{IJ} = \vec{PK} = \frac{\vec{AC}}{2}, \vec{JK} = \vec{IL} = \frac{\vec{BD}}{2} \text{ が示されるので、四辺形 } IJKL \text{ も平行四辺形である。 (証明終)}$$

上記の議論により、 $\vec{EF} = \frac{2}{3}\vec{IJ}, \vec{FG} = \frac{2}{3}\vec{JK}, \vec{GH} = \frac{2}{3}\vec{KL}, \vec{HE} = \frac{2}{3}\vec{LI}$ であるから、題意を満たす正の定数として、

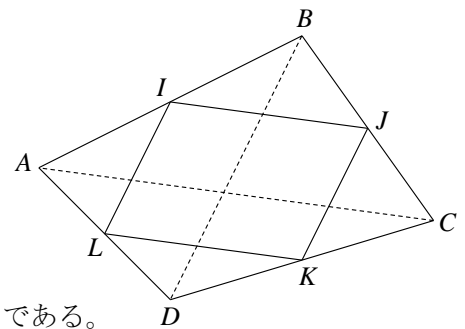
$k = \frac{2}{3}$ が存在する。(証明終)

(2)

平行四辺形 $EFGH$ は、平行四辺形 $IJKL$ と相似であり、相似比は $\frac{2}{3}$ 。

平行四辺形 $EFGH$ の面積は、平行四辺形 $IJKL$ の面積の $\frac{4}{9}$ である。

次に、凸四角形 $ABCD$ と、平行四辺形 $IJKL$ の関係を考える。



$IJ \parallel AC, LK \parallel AC$ であるから、 $\triangle BIJ \sim \triangle BAC, \triangle DLK \sim \triangle DAC$ である。

$\triangle BIJ$ の面積は、 $\triangle BAC$ の面積の $\frac{1}{4}$ であり、 $\triangle DLK$ の面積は、 $\triangle DAC$ の面積の $\frac{1}{4}$ である。

したがって、 $\triangle BIJ$ と $\triangle DLK$ の面積の和は、凸四角形 $ABCD$ の面積の $\frac{1}{4}$ である。

同様に、 $\triangle CJK$ と $\triangle AIL$ の面積の和も、凸四角形 $ABCD$ の面積の $\frac{1}{4}$ である。

以上により、平行四辺形 $IJKL$ の面積は、凸四角形 $ABCD$ の面積の $\frac{1}{2}$ であるから、

平行四辺形 $EFGH$ の面積は、凸四角形 $ABCD$ の面積の $\frac{2}{9}$ である。

求める面積比は $\therefore 9:2 \dots\dots$ (答)